

早風遺跡 i 地点発掘調査現地公開の開催

宮城県多賀城跡調査研究所では、奈良・平安時代の陸奥国府である多賀城とともに、多賀城と関連が深い県内各地の遺跡の発掘調査を行っています。

今年度は、加美町教育委員会との共催で早風遺跡 i 地点の発掘調査を実施しています。このたび、その成果がまとまりましたので、報道機関の皆様を対象に現地公開を開催します。

当日は、所員が現地で発掘調査の成果を説明しますので、ぜひ取材して下さるようお願いします。

記

- 1 日 時 令和7年7月3日(木) 午前10時30分から正午(小雨決行)
※雨天時は賀美石地区公民館で説明・遺物展示
- 2 集合場所 加美郡加美町鳥屋ヶ崎字宮前41番1【別添地図参照】
※集合場所から発掘調査現場まで送迎いたしますので、必ず事前に現場携帯電話まで御連絡ください。
- 3 説明者 宮城県多賀城跡調査研究所 古田和誠 黒田智章
- 4 調査成果 当日、現場で調査成果をまとめた資料を配布いたしますが、概要は別添資料を参照ください。
- 5 その他 発掘調査現場は山林内で、足場も悪い状態ですので、長靴等の汚れても構わない靴で御来跡ください。

はやかぜ

早風遺跡 i 地点発掘調査の成果について

調査の目的

早風遺跡は、奈良・平安時代の賀美郡の役所跡で国の史跡に指定されている東山官衙遺跡の北・東側に所在します。遺跡内には土手状の高まりと堀状のくぼみが広範囲にわたって明瞭に認められ、これまでの発掘調査から、これらは奈良・平安時代の土塁と堀で、東山官衙遺跡の防御施設と考えられます。

今回は、遺跡の北端に位置し、入口などの施設の存在が予想される i 地点を対象に発掘調査を実施しました。

調査成果

- ・ 現在の地表面で認められる 2 条の土手状の高まりとその間の堀状のくぼみの調査を行い、これらが築地塀^{ついでべい}、土塁、堀で構成される奈良・平安時代の防御施設であることを確認し、その規模や構造が明らかになりました。
- ・ 築地塀は、土を少しずつ突き固めて積み上げる「版築」^{はんちく}という工法で築かれた東山官衙遺跡でも見つかっている格式の高い塀で、本遺跡で確認されたのは初めてです。築地塀が造られていることから、i 地点は重要な地点と考えられ、入口などの施設が存在する可能性が高まりました。



i 地点の調査状況（南東から）

堀は幅約 5 m、深さ 1.7m で、堀の底面と残存する築地塀の比高は 3.5m ほどあります。



外敵の侵入を防ぐ堀と築地塀（北東から）

集合場所のご案内



S=1/50,000 地理院タイル（標準地図）に追記



S=1/10,000 Open Street Map に追記